2年10月28日(水)

事業に共感 寄付額最高

久慈・北三陸じもっと基金

6団体支援へ148万円 定額給付金活用で伸び

久慈市川崎町のNPO法人やませデザイン会議（久保田敏晴議長）が手掛ける本年度の北三陸じもっと基金の「共感寄付」に過去最高の148万2千円が集まった。2016年度から始まり、新型コロナウイルス感染症の影響で伸び悩みも懸念されたが、国の特別定額給付金を活用した浄財も寄せられた。支援先の地域づくり6団体は感謝を込めて活動の充実を期す。

本年度の寄付金交付式は23日、同市川崎町の勤労青少年ホームで行われ、久保田議長からNPO法人風花（野田村）、マルガオハウス、ハピライフ（洋野町）、アレルギーケア・くじ、山の上の演劇隊、NPO法人元気てらす縁（久慈市）の代表者に目録が贈られた。

共感寄付は地域団体の活動を住民らが1口千円で支える制度で、16年度に信金中央金庫（東京）の支援でスタート。地域団体は毎年春に活動やイベント内容をPRするキックオフ式を皮切りに募金を呼び掛け、終了後は寄付者に礼状と活動報告書を送る仕組みだ。

元気てらす縁は、高齢者らの居場所づくりを目的に開設したカフェ「てとりん」の充実に向け200口20万円を目標に初めて参加し、26万4千円が集まった。根井明美理事長(63)は「温かい激励にますます頑張ろうと思った。椅子など備品購入に役立てたい」と意欲を高める。

これまでの最高額は18年度の134万5千円だった。やませデザイン会議の川代明寛事務局長は「コロナ禍で苦戦も覚悟したが、特別定額給付金を活用した寄付も伸びた。本当にありがたい」と感謝する。

（及川純一）

温かな支援を受け活動の充実を期す6団体の代表者と久保田敏晴議長（中央）